

事業群評価調書(令和元年度実施)

基本戦略名	5 次代を担う子どもを育む	事業群主管所属	事業群①②:教育庁義務教育課、事業群③:教育庁高校教育課
施策名	(5) グローバル化社会を生き抜く力を持った人材づくり	課(室)長名	事業群①②:木村 国広、事業群③:鶴田 栄次
事業群名	① 子どもたちが直接外国語に親しむ体験活動の推進	事業群関係課(室)	
	② 小・中・高を通じた外国語教育の充実		
	③ 高等学校における特色ある国際理解・外国語教育の推進		

1. 計画等概要

<p>(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文)</p> <p>①我が国の言語や伝統・文化に対する理解を深めるとともに、外国語教育の充実により、外国語によるコミュニケーション能力の育成を進めます。</p> <p>②小学校低・中学年から英語に慣れ親しむ活動時間を設定したり、高学年に中学校の学習内容を関連づけたりするなど、小中の連続性を考慮した教育課程の編成・実施等、英語教育の充実に資する取組の普及・促進を図ります。</p> <p>③高等学校において、外国語指導助手(ALT)等の積極的な活用や外国語を学ぶ実践的な機会を提供することにより、生徒の国際理解を促進するとともに、外国語によるコミュニケーション能力を高めます。</p>	<p>(取組項目)</p> <p>i) 様々な体験活動、県独自教材の活用によるコミュニケーション能力の育成(事業群①②)</p> <p>ii) ネイティブスピーカー(ALT等)を活用した実践的なコミュニケーション活動を実施(事業群③)</p> <p>iii) 英語・中国語・韓国語を実践的に学ぶ語学研修等を実施(事業群③)</p>
--	---

事業群	指標		基準年	H28	H29	H30	R元	R2	最終目標(年度)	進捗状況の分析
	① 中学校卒業時に英検3級程度以上の英語力を持つ生徒の割合	目標値①		35%	40%	45%	50%	60%	60% (R2)	
	実績値②	31.3% (H26)	32.8%	38.8%	43.4%			進捗状況		
	②/① (達成率)		93%	97%	96%			やや遅れ		
② 県学力調査(英語)で6割以上理解している中学生の割合	目標値①		60%	65%	70%	70%以上を維持	70%以上を維持	70%以上を維持 (R2)	②今後、求められる英語力に対応するため、平成29年度から調査問題の内容を大きく変更したことにより、県学力調査(英語)で6割以上理解している中学生の割合は、37.8%にとどまっているが、前年度から13.3ポイント向上した。スペリングコンテストや中学生英語暗唱大会などを実施したことにより、生徒の英語力向上が図られた。また、教員に対しても、TOEIC IPテストを実施するなど、教員の英語力向上も図った。	
	実績値②	51.9% (H27)	56.4%	24.5%	37.8%			進捗状況		
	②/① (達成率)		94%	37%	54%			遅れ		
③ 外国語指導助手が参加する授業により外国語学習の意欲や外国への興味・関心が高まった生徒の割合	目標値①		90%以上を維持	90%以上を維持	90%以上を維持	90%以上を維持	90%以上を維持	90%以上を維持 (R2)	③定時制課程(夜間部)と通信制課程を除く、すべての県立高校で外国語指導助手を活用した授業を行った結果、主な成果指標である「外国語学習の意欲」や「外国への興味・関心」が高まったとの評価を生徒から得ており、目標を達成した。	
	実績値②	90.7% (H24-26平均)	91%	91.8%	92.3			進捗状況		
	②/① (達成率)		100%	100%	100%			順調		

2. 平成30年度取組実績(令和元年度新規・補正は参考記載)

事業番号	取組項目	事務事業名 所管課(室)名	事業期間	事業費(単位:千円)			事業対象	事業概要 平成30年度事業の実施状況 (令和元年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				平成30年度事業の成果等	中核事業	
				H29実績	うち 一般財源	人件費 (参考)			指標	主な目標	H29目標	H29実績			達成率
				H30実績							H30目標	H30実績			
				R元計画							R元目標				
1	取組項目 i	ながさキッズイングリッシュチャレンジ事業 義務教育課	(H30 終了) H28-30	46,762	45,771	10,460	公立小中学校の児童生徒・教員	小中学生の英語でコミュニケーションを図る力の向上を目指し、外国人と英語で交流する体験プログラムを提供し、英語学習に対する意欲の向上を図った。H30年度のイングリッシュキャンプには、4市の45校から3641名の生徒が参加した。			活動指標	英語コミュニケーション体験活動事業への参加人数(人)	3,600	3,630	
				44,330	43,660	10,364			3,600	3,641			101%		
2	取組項目 i	小学校からの英語教育ポトムアップ事業費 義務教育課	(R元 新規) R元-2				公立小中学校の児童生徒・教員	小学校外国語教育の早期化・教科化に向け、教員の英語力及び指導力の向上を目指し、外国語の指導経験の少ない教員を対象に県内3か所において、2日間の体験的な研修を実施する。	活動指標	イングリッシュ・サポート・キャンプの開催(回)				-	○
											3				
				3,754	2,538	11,162					成果指標	外国語の学習を肯定的に捉えている児童の割合(%)			
3	取組項目 ii	外国語指導助手招致費 高校教育課	S62-	233,198	233,198	1,609	高校生	定時制課程(夜間部)と通信制課程を除く、すべての県立高校にALTを配置した。	活動指標	県立学校(定・通信制を除く)において、外国語指導助手が参加する授業実施率(%)	100	100	100%	●事業の成果 ・H30年度も外国語指導助手が参加する授業の実施によって、生徒の外国語学習の意欲や外国への興味・関心を高めることができた。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与・生徒のコミュニケーション能力の向上、英語学習のモチベーションの向上、地域での国際理解の促進に寄与している。	○
				232,426	232,426	1,594					100	100	100%		
				235,901	235,901	3,189					成果指標	外国語指導助手が参加する授業により外国語学習の意欲や外国への興味・関心が高まった生徒の割合(%)	90		
4	取組項目 iii	長崎から世界へ！高校生グローバルチャレンジ 高校教育課	H27-R元	19,656	10,101	5,632	高校生	英語・中国語・韓国語の語学研修、企業訪問研修の実施、生徒の国際的素養を高める学校の取組への支援を行うことによりグローバル人材の育成を図った。	活動指標	国指定のスーパーグローバルハイスクール事業に係る「課題研究」の実施時数(時間)	120	142	118%	●事業の成果 ・将来長期の海外留学を希望する等、生徒の海外への興味・関心を高めることができた。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与・長崎県グローバルハイスクール支援事業の対象校において、グローバルな課題に関する研究に費やす時間数が増加しており、グローバル人材の育成に寄与している。	○
				19,300	10,582	4,783					120	154	128%		
				17,721	8,621	6,378					成果指標	本事業対象校において高校又は大学で長期海外留学を希望する生徒の割合(%)	76		

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

<p>i) 様々な体験活動、県独自教材の活用によるコミュニケーション能力の育成(事業群①②)</p> <p>生徒の英語学習に対する興味・関心を高め、学習した英語を活用する場として、H28年度からの3か年計画で「イングリッシュキャンプ」事業を実施した。(3年間で170校、10837名が参加) 参加した生徒の94.5%が、「英語をもっと勉強しようという気持ちが高まった」と回答し、参加校の7割の教員が授業における英語使用を増やし、授業改善にもつながった。英語教育実施状況調査においては、「授業中半分以上発話を英語で行っている教員の割合が79.7%と、全国平均の68.7%を大きく上回っていることも、本事業の成果と捉えられる。さらに本事業をきっかけとして、県内の13市町において、独自の英会話体験活動が実施されるなど、事業の広がりを見せている。今後、イングリッシュキャンプのような英会話体験活動が、一過性のイベントに終わらず、授業において継続して指導していくことが必要である。</p> <p>「RISE UP ENGLISH」を活用したスプリングコンテストは、H30年度17,014名が参加した。今後も参加生徒数を増やし、小学生にも「RISE UP ENGLISH」を活用してもらうよう周知を図っていく。</p> <p>また、H29年度から県学力調査問題を新学習指導要領で求める資質・能力の育成に対応したものに変更したため、引き続き教育課程説明会で新学習指導要領の趣旨や内容を教職員に確実に伝達するとともに、学校訪問等で授業改善を促していく。</p>
<p>ii) ネイティブスピーカー(ALT等)を活用した実践的なコミュニケーション活動を実施(事業群③)</p> <p>定時制課程(夜間部)と通信制課程を除く、すべての県立高校で外国語指導助手を活用し、コミュニケーション活動を中心とした授業を実施し、外国語学習に対する意欲や、外国に対する興味・関心が高まっている。今後は大学入試改革等でこれまで以上に「聞く」「話す」「読む」「書く」の英語4技能の育成が求められるため、民間資格・検定試験を活用するなど生徒の英語による発信力をさらに高めていく必要がある。</p>
<p>iii) 英語・中国語・韓国語を実践的に学ぶ語学研修等を実施(事業群③)</p> <p>英語・中国語・韓国語を学ぶ生徒への海外での語学研修の機会の提供や、長崎県グローバルハイスクール支援事業の対象校におけるグローバルな課題をテーマにした探究的な学習の支援を行っている。また、海外研修参加者の語学力が向上し、国のスーパーグローバルハイスクール事業に係る中間評価でAランク(上から2番目)の評価を得るなど実績を上げている。今後もこの取組を継続し、グローバル社会で活躍できる人材を育成し、さらなる成果の普及を進める必要がある。</p>

4. 令和元年度見直し内容及び令和2年度実施に向けた方向性

事業番号	取組項目	事務事業名	令和元年度事業の実施にあたり見直した内容 (令和元年度の新たな取組は「R元新規」等と記載、見直しが無い場合は「-」と記載)	令和2年度事業の実施に向けた方向性		
				事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
2	取組項目 i	小学校からの英語教育ボトムアップ事業費	R元新規	⑥	令和2年度においても引き続き事業を実施しながら、実施時期の検討及び研修プログラムの内容の充実を図っていく。 また、小学校における学びを生かし、校種間の円滑な接続を図るよう、各地域、校区内での小中連携を推進するとともに、新学習指導要領の内容の周知を徹底し、授業改善を推進する。	改善
3	取組項目 ii	外国語指導助手招致費	外国語指導助手や英語教員に対する研修において、表現力を高める具体的な教授法等を習得させることに重点を置くなど内容の充実を図る。	—	生徒のコミュニケーション能力等の向上を図るため、今後も事業を継続していく必要がある。	現状維持
4	取組項目 iii	長崎から世界へ！高校生グローバルチャレンジ	県英語教育研究会が発行する広報誌等を活用し、成果を普及させる取組を充実させる。	—	これまでの事業成果を踏まえて、生徒の国際的素養を高める取組を支援する新たな事業展開について検討する。	終了

注:「2. 平成30年度取組実績」に記載している事業のうち、平成30年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができていないか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点